



昭和のくらし博物館 第14回企画展

# 楽しき 哀しき 昭和の 子ども

2017年9月8日(金)  
↓2019年9月1日(日)

※会期が延長になりました

開館日/金・土・日・祝日 午前10時~午後5時

入館料/大人500円 小・中・高校生300円 友の会員300円

あの頃、ぼくが見ていた、光と影……

<http://www.showanokurashi.com>





# 昭和時代の子どもを、楽しい面と哀しい面の明暗二つの側面から見てみる。

**昭和戦前から戦後20年代頃までは、** 戦災、戦争孤児や食糧危機による餓死、栄養状態や環境衛生の悪さと医療の未発達、保健福祉の不備による伝染病等の病気によって多くの子どもが失われました。さらに貧困による、親子心中、捨て子、貰い子殺しなどの悲惨な事件も多発しました。

**その一方で、** 戦争中を除けば、昭和時代は子どもたちにとって、明るく楽しい時代でもありました。チョコレートなどのハイカラなおやつ、面白い絵本や紙芝居、洋服や靴、デパートの屋上遊園地やお子様ランチ、緑日の夜見世など楽しみがたくさんありました。近所の子どもや、きょうだいも多く、家の中でも外でも、さまざまな遊びで日が暮れました。戦後はさらにテレビや漫画、ゲームなど娯楽も広がり、子どもの世界も大きく変わり、都市と農村との差も少なくなりました。



**第1室（企画展示室）**では、昭和の子どもについて、その社会背景とともに「**楽しき子ども**」と「**哀しき子ども**」の世界を展示しています。  
また、当時の子どもたちが胸を躍らせた夜見世を再現したほか、昭和戦前戦後に子どもたちが楽しんだおもちゃや絵本の数々を部屋中にちりばめ、手に触れたり、子どもに戻って楽しめる展示になっています。



**第2室（子供部屋）**では、漫画家の高野文子さんが、昭和の子どもの世界を「山口さんちの子ども部屋」として展示しています。  
見どころは、昭和30年代に少女期を過ごした姉妹、山口いずみさんとわかばさんが遊んでいた人形やおもちゃです。姉妹の両親はともに高名な歴史学者ですが、ふたりは「よく遊び、よく学べ」を地でいくような、実にのびのびとした幼少期を送りました。  
そうした心豊かな姉妹の生き生きとした子ども世界を、当時の写真や日記によって辿る展示になっています。



\*\*\*\*\*



第14回企画展

## 楽しき 哀しき 昭和の子ども

会 期：2017年9月8日(金)～2019年9月1日(日)  
開館日：金・土・日・祝日 午前10時～午後5時  
入館料：大人500円 小・中・高校生300円 友の会員300円



登録文化財 昭和のくらし博物館 旧小泉家住宅

昭和26年建築の木造2階建ての庶民住宅と家財道具を保存し丸ごと公開している博物館。昭和30年前後のくらしの常設展示・企画展・特別展などの他、くらしを考える講座やイベントを随時開催しています。

〒146-0084 東京都大田区南久が原2-26-19  
TEL 03-3750-1808(開館時間内) Mail mail@showanokurashi.com  
東急池上線久が原駅または、多摩川線下丸子駅より徒歩8分

最新情報は、随時ホームページで更新しています！  
<http://www.showanokurashi.com>